

2020年2月23日(日)／説教者:柴田良行(首里バプテスト教会牧師)
沖縄バプテスト連盟牧師会・牧師講壇交換

説教:「真の休息」

聖書:マルコによる福音書6:30～44

本日はご一緒に礼拝にあずかせていただき感謝です。

私たちは日常の中で多くの課題を背負っています。「忙しい、忙しい」と心の中でつぶやくことのなんと多いものでしょう。忙しいとは心を亡くすと書きます。弟子たちも、はじめての宣教に遣わされ、心も体もくたくたでした。そんな弟子たちに、主イエスは「しばらく休むがよい」と告げられます。「やっと休める」と、ホッとしていた弟子たちでしたが、それも束の間、主イエスによって、飼い主のいない羊のような有様の群衆たちに向き合わされることとなります。

「いい加減にしてくれ～」弟子たちの悲鳴のような叫び声が聞こえてくるようです。「もうこの人たちを解散させてください」と申し出ると、なんと「あなたがたが彼らに食べ物を」と主イエスから言われてしまいます。訳の分からないイエス様のお言葉！

仕方ないつつぶやきながら、弟子たちはそれでも主イエスによって用いられてゆきます。主イエスによって、飢えと痛みで嘆いていた大勢の群衆たちが荒野ではなく、若草の野辺に導かれ、おなか一杯になるまでごはんを食べられたのです。それはまさしく、主イエスが開かれた「神の国」そのものでした。そして、このイエス様が用意された神の国の食卓に弟子たちが招待された瞬間でもありました。そこには、一時的な気休めでなく「真の休息」があったのです。

それにしても、弟子たちはずっと文句ばかりでした。決して品行方正とはいえません。そんな欠けだらけだけれど、そういう弟子たちが用いられているのです。私たちも、そんな弟子たちとなんら変わらないものでしょう。でも、そういう私たちに主は「あなたがやっごらん、あなたが必要だよ」と語りかけてくださるのです。そして、すべての人に「若草の野辺」で安心して、笑って歌って、おなか一杯になれる嬉しい神の国の食卓が必ず開かれることを約束されているのです。(柴田良行)